



日

小樽運河

北海道有数の港湾都市



北前船の寄港地で、港湾都市として発展した小樽市は、山形県酒田市、福井県敦賀市、島根県浜田市、広島県呉市など日本海や瀬戸内海沿岸の多くの地域と共に日本遺産「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」に認定されています。

本の源流再発見

File 20

北海道小樽市

運河と木骨石造建築が織りなす港の風景

北前船とは、現在の北海道や日本海沿岸の港と、大阪を結ぶ西回り航路を利用した貨物船のことで、江戸時代から明治時代まで活躍しました。その様子を知ることができるのが、小樽市総合博物館 運河館。当時の大福帳



旧日本郵船株式会社小樽支店

や勘定書、明治時代の貴重な港の写真などが展示されています。建物は、1893年に建てられた旧小樽倉庫の一部を利用。これは小樽市の歴史的建造物に多い、木骨石造建築で、木造の骨組みに壁として軟石（凝灰岩）が貼られています。

小樽市には多くの歴史的建造物が残っています。そのひとつが国の重要文化財に指定されている旧日本郵船株式会社小樽支店です。1906年に落成したこの建物の内部には当時の様子が復元されており、特に2階の贅をつくした貴賓室は一見の価値があります。



手宮線跡地

その裏手には、北海道で最古の官営幌内鉄道の歴史を受け継いだ旧国鉄手宮線のレールが残っています。現在は遊歩道になり、観光客の撮影スポットとして、地元の人々の散歩道として、一日中にぎわっています。



▲ 小樽市総合博物館 運河館

アイヌの時代から近代までの小樽のあゆみを、発掘資料、古地図や古写真、自然史資料など、さまざまな角度から紹介しています。写真は北前船の模型と実際に使われていた帆



▲ 旧日本郵船株式会社小樽支店

復元された1階の接客カウンターおよび営業室の様子。各机に1つずつ電球(当時のものを復元)が取り付けられています



▲ 北一硝子三号館

照明に167個の石油ランプを使用。これらは毎日開店と同時に点火し、閉店後には消灯したうえで清掃して翌日に備えるという、あたたかな明かりが、ほっとする空間をつくりだしています



▲ 日本銀行旧小樽支店金融資料館

東京駅的设计で知られる辰野金吾らが设计を担当。重厚で美しいたたずまいは圧巻です。小樽市指定有形文化財に指定されています

手宮線跡地からほど近いところに日本銀行旧小樽支店金融資料館があります。1900年前後の小樽は商都として大いに栄え、「小樽銀行街」と呼ばれていました。現在は日本銀行の広報施設として無料公開されています。

多くの観光客が行き交う堺町通り商店街には、北一硝子三号館があります。この建物は、1891年に建てられた漁業用倉庫でしたが、所有していた水産会社の移転に伴い、北一硝子が譲り受け、現在はショップや喫茶店として利用しています。店内には魚を運ぶトロッコのレールが残り、階段が入り組ん

だ複雑な構造もユニークです。

そして、小樽といえば外せないのが小樽運河。一般的な運河は、内陸を掘ってつくりますが、小樽運河は沖に人工の島をつくり、残った海面を「運河」とよびました。1923年に完成し、以来1950年代まで小樽の物流を支えてきました。

ココに注目

通販で人気のルタオのチーズケーキ「ドゥーブルフロマージュ」。お店では、生クリームがトッピングされた生ケーキを購入可能。



日立グループ事業所紹介

今回訪れた北海道には株式会社北海道日立システムズがあります。道内のお客さまに一番近い存在として、ワンストップサービスで質・量ともにオンリーワン・カンパニーをめざして、新たな価値創造に取り組んでいます。

株式会社北海道日立システムズ 北海道札幌市中央区大通西3丁目11番地 北洋ビル9階
<http://www.hokkaido-hitachi-systems.co.jp/>